

2015 年 4 月 27 日

伝統産業の精神性を取り戻す：ツトム・ヤマシタとのコラボレーション オムロン基金研究プロジェクト 2014 年度最終報告書

研究代表 ビジネス研究科 村山裕三

1) 活動実績

①大徳寺「音禅法要」におけるサヌカイト染による装飾及びパンフレットフォルダーとリーフレットの製作

ツトム・ヤマシタが奏でるサヌカイトの波動による新たな友禅染を開発し、2013 年に大徳寺で行われた「音禅法要」において初披露した。2014 年度の「音禅法要」のテーマは神と仏の融合であり、2014 年 6 月 6 日に開催された「音禅法要」では、サヌカイト染による布で、会場の装飾を行った。また、今年度の新たな試みとして、サヌカイト染をデジタル処理し、これによるパンフレットフォルダーを作製し、「音禅法要」の参加者に配布した。これが、資料 1 のフォルダーであり、表側は、妙心寺の襖のデザインを活用し、内側は、大徳寺の「音禅法要」の写真と神社の白砂を組み合わせ、神と仏の融合というテーマにふさわしいデザインとした。これに加えて、「伝統産業グローバル革新塾」とツトム・ヤマシタとのコラボレーション・プロジェクトを説明したリーフレット（資料 2）を作製し、本プロジェクトの衆知ツールとして使用した。

②サヌカイト染めによる掛け軸の製作

昨年度の妙心寺塔頭如是院の襖絵製作に続き、本年度は、サヌカイト染を使った掛け軸の製作に挑戦した。これが、写真 1 の掛け軸であり、これを数装製作し、大徳寺と大聖寺などに寄贈した。残念ながら、ケネディー米国大使が京都を訪れなかったため、計画通りケネディ大使に寄贈することはできなかったが、今後は、京都や同志社を訪れる貴賓用のプレゼントやお寺用の販売用掛け軸として展開する計画である。

③「虚空会 秋の縁」での作品発表

2014 年 11 月 15 日に開催された、ツトム・ヤマシタが理事を務める「虚空会」の秋イベント「秋の縁」に「革新塾」が共催する形で参加し、この機会を利用して新作品の発表を行った。ここでは、本プロジェクトの新作品として、加藤泰一が製作した香炉と祈りの石の試作品（写真 2、3）を披露した。この両作品は、焼き物の生地にサヌカイトを粉碎したものを練りこんで焼き上げたもので、従来の香炉とは一線を画す作品となった。このイベントでは、竹本忠雄（文人）と高橋睦夫（詩人）による講演が行われたが、この場を借りて村山が本プロジェクトの内容と意義を説明し、川邊と加藤が作品制作にまつわる話を行った。また、本プロジェクトを説明する冊子（資料 3）を配布した。

④「六本木アートカレッジ」におけるプレゼンテーションと配布グッズの製作

2014年11月24日に、宇宙航空研究開発機構（JAXA）と共催で、「六本木アートカレッジ」において講演を行った。本講演では、「革新塾」とJAXAとのコラボレーションの内容を説明するとともに、宇宙と禅の切り口で、ツトム・ヤマシタとのプロジェクトの解説を行った。このイベント案内が資料4であるが、当日集まったのはほとんどがアート志向の若者であった。なお、プレゼンテーションの際に、本プロジェクトの説明冊子（資料3）とともに、お香の香りを付けた桜の花びらのブックマーク（資料5）も配布した。

⑤商業展開のための試作品の製作

本プロジェクトの一つの目的は、ツトム・ヤマシタのアートディレクションのもとで、お寺向けのハイエンド作品やアート色の強い作品を製作し、ここで精神性を吹き込んだ作品から商業用の製品を生み出し、伝統産業に新たな風を呼び込み、伝統産業の活性化に結び付ける点にある。この路線に従って、2014年秋より、本格的に商業展開のための試作品の製作を始めた。これらが、写真4のサヌカイト染めのスカーフと写真5のショットグラス、香立、香皿、ペンダントトップなどのサヌカイトを練りこんだ一連の焼き物である。これらをスタートにして試作品にさらに磨きをかけ、マーケットでも通じる新たな伝統産業品の開発をめざす計画である。

2) プロジェクトから得られた成果

サヌカイトの波動による友禅染（サヌカイト染）は、人の作為を存在させず、石が振動することにより波動を作り出し、それを染物に写し込むという、世界でも類例のない染の技法がベースになっている。この人の作為から解き放たれたデザインは、思考の面からは禅の考え方と共通する部分があり、まさに日本からしか生まれえないもので、これがまたツトム・ヤマシタがめざす表現世界でもある。

本年度は、昨年度の襖に加えて、掛け軸を作成し、これを寺院におさめることにより、僧侶からは高い評価が得られた。また、同様の発想に基づいた焼き物の製作は、試作品ではありながら、焼き物の世界で同様の表現を実現することができ、「虚空会」のメンバーからは一定の評価が得られた。次年度は、これをさらに発展させて「音禅法要」で使う香炉の製作を行うが、これが大徳寺に認められて使用が許されるようになれば、一つの大きな成果になる。

これまでの活動により、五感のうちで、音—サヌカイト音楽、視—サヌカイト染、嗅—お香、触—焼き物、までたどり着くことができた。しかし、まだ「味」の部分が残っており、これが新たな五感による表現を完成させるためには不可欠であるが、課題として残っている。本年度は、古代米による製作を試みたが、残念ながらうまくゆかなかった。

製品の商業化については、まずお香については、そのまま販売が可能である。染については、スカーフの試作品が出来上がり、焼き物についても、ショットグラス、香立、香皿、ペンダントトップなどを試作し、一定の方向を見出すことができた。両

製品とも、まだマーケットで売れるレベルにまでは達していないが、この方向性を延ばして磨きをかけることにより、その可能性は出てくるものと考えている。

一方、本プロジェクトの衆知活動を異なる2つの場で行い、徐々にではあるが、我々の活動のファンが増加しつつある。また、プロジェクト・リーダーの村山は、関西経済同友会の「日本の豊かな精神文化研究会」からのインタビューを受けるなど、日本独自のモノづくりという視点からも、本活動への関心が寄せられていることを認識するに至った。

3) 成果物（出版物、研究発表、講演など）

- ① 「音禅法要」パンフレットフォルダー
- ② 本プロジェクト説明リーフレット
- ③ 本プロジェクト説明冊子
- ④ サヌカイト染による掛け軸
- ⑤ サヌカイトを練りこんだ香炉
- ⑥ サヌカイト染、商業展開用試作スカーフ
- ⑦ サヌカイトを練りこんだ商業展開用試作焼き物
- ⑧ 桜の花びらのブックマーク
- ⑨ 「虚空会 秋の縁」におけるプレゼンテーション
- ⑩ 「六本木アートカレッジ」におけるプレゼンテーション

4) 申請書に記述された内容と成果の比較（達成度についての自己評価）

まず、「音禅法要」における展開であるが、サヌカイト染のデザインを使ってパンフレットフォルダーとリーフレット製作したことで一定の成果を上げられたといえるが、この一方で、「音禅法要」自体を盛り立てるための伝統産業品の新たな製作が進まなかったことがマイナス点といえる。もちろん、サヌカイト染とお香は、昨年以上にインパクト持つ形で披露できたが、新たな作品の発表は秋にまで持ち越された。

「虚空会 秋の縁」では、焼き物の新作品を披露することができた。特に、香炉は既存の作品には存在しないユニークな形状となり、それなりの精神性は表現できているのではないかと感じている。なお、食の部分は、古代米である「赤米」と「黒米」による作品作りに挑戦したが、試作品を作るまでには至らなかった。この一方で、サヌカイト染による掛け軸の製作は、計画になかった部分である。襖に続いて、掛け軸を制作できたことは、サヌカイト染の寺社に対する強みを生かした新たな展開となった。

ツトム・ヤマシタからのデザイン・ディレクションを得て製作した作品から、商業的な製品を作るプロセスにも入ることができた。まだ、マーケットのニーズに即した製品が出来上がったとはいいいがたいものの、これに向かったスタートは切ることができ、商業化の方向性も徐々にではあるが見えてきた。

本プロジェクトの衆知活動は、パンフレットや冊子の製作など充実したものとなり、「虚空会 秋の縁」と「六本木アートカレッジ」という、全く性格を異にする場で、成果の発表をすることができた。なお、「六本木アートカレッジ」の発表では、

交通費は JAXA が負担し、また、配布した桜の花びらのブックマークも、JAXA の負担で製作でき、一定のコスト削減も行うことができた。

このように、達成できなかった部分がある一方で、計画にはなかった部分に挑戦できた一面もあり、本年度も予算額に見合う成果が得られたと考えている。